

# 富山県地域交通戦略会議のこれまでの経過

## < 令和 4 年度 >

6月2日

第1回富山県地域交通戦略会議 (6.2)

ウェルビーイングの向上の視点から議論を始めることを確認。

7月  
・  
8月

第1回鉄軌道サービス部会 (7.1)  
第1回地域モビリティ部会 (8.3)  
第1回サービス連携高度化部会 (8.19)  
第1回交通ワンチーム部会 (8.26)

ウェルビーイングの向上をもたらす地域交通サービスについて議論・整理。

9月1日

第2回富山県地域交通戦略会議 (9.1)

富山県地域交通戦略の**基本的な方針・考え方**を了承。

11月

第2回鉄軌道サービス部会 (11.4)  
第2回交通ワンチーム部会 (11.10)

富山県地域交通戦略の**目標**を了承。

11月17日

第3回富山県地域交通戦略会議 (11.17)

富山県地域交通戦略の目標の議論と並行し、基本的な方針等に沿った施策等について議論を開始。

1月  
・  
2月

第3回鉄軌道サービス部会 (R5.1.12)  
第2回サービス連携高度化部会 (R5.1.19)  
第2回地域モビリティ部会 (R5.1.25)  
第3回交通ワンチーム部会 (R5.2.3)

今年度の様々な検討を踏まえた**地域交通ネットワークの目指すべき姿**について了承。

2月8日

第4回富山県地域交通戦略会議 (R5.2.8)

## < 令和 5 年度 >

5月16日

第4回交通ワンチーム部会 (5.16)

地域交通ネットワークの目指すべき姿を市町村・事業者と共有。

7月  
・  
8月

第3回サービス連携高度化部会 (7.26)  
第4回鉄軌道サービス部会 (8.2)  
第3回地域モビリティ部会 (8.8)  
第5回交通ワンチーム部会 (8.21)

関係者間の役割分担・責任分担、具体的施策について議論・整理。

8月24日

第5回富山県地域交通戦略会議 (8.24)

富山県地域交通戦略における**関係者間の役割分担・責任分担**を了承。

- 関係者が一丸となって目指す地域交通の将来ビジョンとなる、計画の「基本的な方針・考え方」を整理。

### 計画の基本的な方針・考え方

- ・ カーボンニュートラル等の社会からの要請に応え、ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスの実現を目指す。
  - ＜ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービス＞
    1. 誰もが利用でき、使いやすく便利で安全快適に移動できる。
    2. これまで以上に社会と関わりをもち、生き生きと暮らせるようになる。
    3. 日々の生活の中でお得感、満足感、新しい発見を得られる。
- ・ 自治体や地域住民の積極的関与・参画、事業者間の協調など、関係者間の役割分担・責任分担について考え、地域全体で実現を目指す。

- 基本的な方針・考え方を踏まえ、計画期間（R6年度～R10年度）で達成を目指す目標として以下の3点を設定。
- 計画策定後、定期的にモニタリングし、その結果を踏まえ施策等についても、必要に応じブラッシュアップを図っていく。

## 戦略の目標

### <目標1> 県民一人当たりの地域交通利用回数

- ・地域交通サービスの最適化を通じた県民の利用機会の増加を目指す。

### <目標2> ガソリン車の台数

- ・カーボンニュートラルを推進するため、地域交通の利用を促進し、ガソリン車の台数の削減を目指す。


### <目標3> 地域交通への満足度

- ・県政世論調査を通じて県民の満足度を把握し、ウェルビーイングの向上を目指す。


# 富山県の地域交通ネットワークの目指すべき姿 ①

- 全市町村に鉄道が通る本県の強みを活かし、鉄軌道や駅を中心に、あらゆるサービスが一つにつながるネットワークを県全体で形成し、ウェルビーイングを向上させる持続可能で最適な地域交通サービスを実現。
- 県民に発信・共有を図りながら、実現に向けて目指すべき4つの姿について具体的な方策等を検討。

**(目指すべき姿その1)**  
鉄軌道サービスの利便性・快適性向上




**(目指すべき姿その4)**  
ネットワーク内のサービスの統合・進化



**(目指すべき姿その2)**  
結節点となる駅の機能強化



**(目指すべき姿その3)**  
地域内のモビリティサービスの確保



# 富山県の地域交通ネットワークの目指すべき姿 ②

## (目指すべき姿その1)

### 鉄軌道サービスの利便性・快適性向上

○本県の地域交通ネットワークの「骨格」となる鉄軌道を中心としたネットワークを実現。

<ポイント>

- ・鉄軌道サービスの利便性・快適性を強力に向上
- ・現行レベルから上乗せするサービスレベルの達成のため、自治体が積極的に関与
- ・駅中心のまちづくりを進める市町村と連携
- ・通学・通勤・通院、観光、買い物等、関連分野との連携を強化（関連部局の予算等の総動員）

## (目指すべき姿その2)

### 結節点となる駅の機能強化

○まちづくりの中心となる駅を「拠点」化し、快適な乗継ぎができるネットワークを実現。

<ポイント>

- ・市町村のまちづくりと連携（市町村が立地適正化計画等で地域の中心に位置づけた駅と連携）
- ・駅での乗継ぎの円滑化のため、自治体が積極的に関与
- ・地域の拠点（学び、交流、子育て等）として駅空間を活用（＝待ち時間の有効活用）
- ・まちづくり、学び、交流、子育て等、関連分野との連携を強化（関連部局の予算等の総動員）



# 富山県の地域交通ネットワークの目指すべき姿 ③

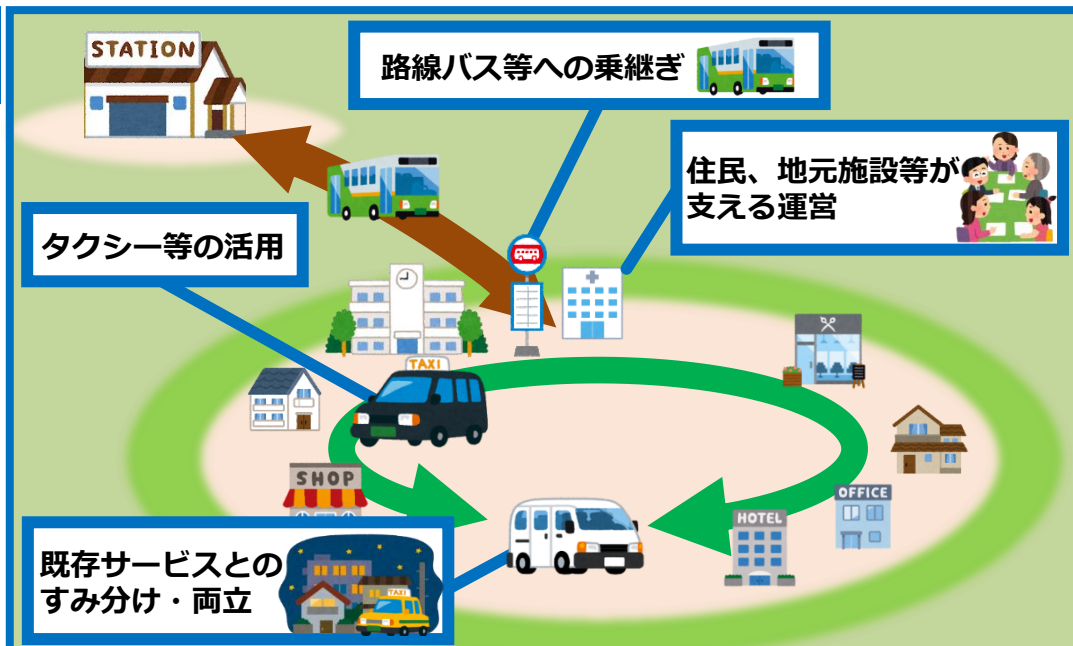
## (目指すべき姿その3)

### 地域内のモビリティサービスの確保

○自宅から最寄りの施設までの身近な移動（ファーストワンマイル）を支えるネットワークを実現。

<ポイント>

- ・地域住民、地元企業・店舗など、地域全体が受け手にも支え手にもなるサービス
- ・路線バス等への乗継ぎや一体的な利用促進
- ・地元のタクシー・バス会社と協力した運行等
- ・タクシーなど既存の交通サービスとの両立
- ・免許返納、子育て等、地域の生活課題との連携を強化（関連部局の予算等の総動員）



## (目指すべき姿その4)

### ネットワーク内のサービスの統合・進化

○これまでにないサービスの創出等により、出かけたくなる、乗りたくなるネットワークを実現。

<ポイント>

- ・データ連携基盤の整備、MaaSによりネットワーク内のサービスを統合・進化
- ・オープンデータ化や関係者間共有に必要なデータ連携基盤の整備等に対し、自治体が積極的に関与
- ・鉄道やバスなどモード横断的なサービスや、観光・宿泊施設や商店等と一緒に創るサービス
- ・何度も乗りたくなるサービス・仕掛けづくり
- ・観光、商店、環境、健康増進等、関連分野との連携を強化（関連部局の予算等の総動員）

